

追加問題	解答・解説
問題277 一等 カテゴリーⅢ飛行におけるリスク軽減策の具体的対策例として、誤っているものを一つ選びなさい。 1）可能な限り第三者の立入りが少ない飛行経路を設定する 2）飛行経路付近に緊急着陸地点や不時着エリアを設定する 3）飛行経路からの逸脱を防止するためのオートローテーション機能を設定する	解答 3） 解説 オートローテーション機能とは、回転翼航空機（ヘリコプター）において何らかの理由で動力が停止して揚力を失っても、降下するヘリコプターのメインローターを下方から上方へと通過する空気の流れを使ってメインローターを回転させて揚力を得ることができる仕組みのことです。この揚力によって、安全な場所に不時着をさせます。 選択肢3）の飛行経路からの逸脱を防止する機能は、ジオフェンス機能が適当です。
問題278 一等 カテゴリーⅢ飛行において飛行許可・承認申請を行う場合に、飛行形態に応じたリスクの分析・評価およびその結果を提出することが求められています。リスクの分析及び評価において考慮すべき事項として、誤っているものを一つ選びなさい。 1）飛行の日時、飛行する空域及びその地域といった基本的事項を含む運航計画 2）飛行経路における人との衝突リスク（地上リスク）及び航空機との衝突リスク（空中リスク） 3）無人航空機を飛行させる者の飛行実績および事故履歴の内容	解答 3） 解説 無人航空機を飛行させる者に関するリスクの分析及び評価において考慮すべき事項は、無人航空機操縦者技能証明及び訓練の内容の二つである。
問題279 一等 カテゴリーⅢ飛行において、無人航空機を飛行させる際の適切な運航管理の体制を維持するため、リスク評価の結果に基づくリスク軽減策の内容を記載した飛行マニュアルの作成・遵守をすることが求められる。当該飛行マニュアルに記載する事項として、誤っているものを一つ選びなさい。 1）無人航空機の点検・整備の方法 2）無人航空機を飛行させる者の技能要件とレベル 3）無人航空機を飛行させる際の安全を確保するために必要な体制	解答 2） 解説 運航管理の体制を維持するために、無人航空機を飛行させる者に求める事項は、技能要件・レベルではなく、知識及び能力を習得・維持するための訓練方法および訓練を含む飛行記録や遵守しなければならない事項などである。
問題280 一等 カテゴリーⅢ飛行の飛行許可・承認の審査要領においては、リスク評価ガイドラインによるリスク評価手法を活用することが推奨されている。このリスク評価ガイドラインはJARUS（Joint Authorities for Rulemaking of Unmanned Systems）のSORA（Specific Operations Risk Assessment）を参考に作成されている。このガイドライン中にある概念（基本コンセプト）として、正しいものを一つ選べ。 1）セマンティックモデルに定義される空間は二つ。無人航空機の飛行の目的や、機体やシステムの性能、環境に応じて設定される飛行範囲である「想定飛行空間」と、機体や外部システムの異常・外乱の影響で想定飛行空間を外れて飛行してしまうことに備えた「異常飛行空間」である 2）ロバスト性（外部の変化や障害に対して強く、安定して機能する能力）を評価する水準は二つある。安全確保措置により得られる「安全性の水準」（安全性の増加）と、計画されている安全性の確保が確実に実施されることを示す「保証の水準」（証明の方法）である 3）リスク評価における「総合リスクモデル」とは、無人航空機の開発プロセスにおけるリスク、ハザード、脅威、安全確保措置の一般的な枠組みのことである	解答 2） 解説 セマンティックモデルに定義される空間のうち、想定飛行空間を外れて飛行してしまうことに備えた空間は、「想定外飛行空間」といわれる。また、リスク評価における「総合リスクモデル」とは、無人航空機の開発プロセスではなく、無人航空機の運航におけるリスクモデルのことである。